秋田県立大曲支援学校　地域支援部報　Ｎｏ.２

hand in hand

発　行
大曲支援学校
地域支援部
令和６年７月19日

本校におけるＩＣＴを活用した授業づくり
～ロイロノートの活用～

本校ではＩＣＴ活用推進委員会のメンバーが中心となり全職員で研修を重ね、すべての学部において児童生徒の実態に応じたＩＣＴを活用した授業実践が行われています。児童生徒の資質・能力の育成にどのような活用の仕方がより有効であるかを検討し、これまでの実践とＩＣＴを最適に組み合わせた授業づくりに取り組んでいます。

小学部では、算数の本時の振り返りの場面で、ロイロノートのテストカード機能を活用しました。

①児童が学習した内容を想起できるように、問題文や選択肢に、授業で活用したイラストを添付します。

②児童が回答を選択しやすいように、選択肢の数を調整します。

③問題文は児童の実態に合わせてロイロノートで提示し、回答はカードを操作する方法も取り入れます。

児童は、BGMやカウントダウン、拍手等の効果音に興味を示し、タブレット端末の画面に釘付けになっていました。正解すると手をたたいて喜び、次の問題に取り組む姿も見られました。

これまでは黒板を使って児童がカードを操作していましたが、順番待ちの時間ができてしまい、児童によっては集中力が途切れたり、離席してしまったりすることがありました。また、恥ずかしさから人前に出ることができない児童もいました。

ロイロノートを使った自作教材を授業に取り入れたことで、全員が一斉に同じ課題に取り組めたり、個に合わせた難易度の課題を同時に提示できたりするなど、児童生徒の理解を深めるための効果的なツールの一つとなりました。

今後は、児童生徒自身が自分の学びやすい方法であることを理解して他の学習場面でも活用できるように、教職員間で共有して導くことが大切だと思います。

せんもんかんの部屋

福伝ROOM

校舎奥に見える福伝山

教諭（兼）教育専門監　大川 康博

子どもの気持ちを切り替えるための先生の関わり方

園や学校の先生から「気持ちの切り替え」が難しい園児児童生徒への対応について相談されることがあります。今回は、小学部３年、生活単元学習の授業での対応例について紹介します。

〇単元名：わくわく探検隊①～わくわくはなびシアター　はなびだ、どん！～

〇学習活動：お花紙をちぎり、好きな花火型の台紙に貼り付ける。

【先生の対応例】

①先生（ＴＩ）は児童が製作活動を始める前に、活動時間（２０分）を言葉で伝え、残り時間をモニターに表示する。

②活動終了５分前に「あと、５分です」「そろそろ花火シアター（次の活動）が開演します」と予告する。

③児童の活動状況を見ながら「できた人から、片付けてください」と伝える。

④タイマーが鳴り「おしまいです」と伝え、活動場所を机から黒板前に変える。

児童は好きな色のお花紙を選んで、ちぎって、台紙に貼り付けて自分なりの花火を表現することに夢中になって取り組んでいました。そのようなときに急に「終わり」と言われてもすぐに気持ちを切り替えることは大人でも難しいものです。活動前、活動中に予告したり、次の活動に移るためのきっかけを準備したりすることで、児童は納得して次の活動に取り掛かることができます。本人が納得するためには、どのような場面設定や教師の支援が必要なのか、または、うまくいっている他の場面を探し、どうしてうまくいっているのかを検討することも大切です。

～特別支援学校体験研修への申し込みをお待ちしています～

授業体験等を行い、指導計画や具体的な指導内容・方法等について研修することができます。ニーズに合わせて柔軟に対応しますので、ぜひ、お問い合わせください。

秋田県立大曲支援学校

教　　頭：北島 英樹（きたじま ひでき）　川越 真紀子（かわごえ まきこ）
教 育 専 門 監：大川 康博（おおかわ やすひろ）
地域支援部主任：丹波 舞子（たんば まいこ）
特別支援教育コーディネーター：熊谷 道大（くまがい みちひろ）青木 真知子（あおき まちこ）
特別支援教育アドバイザー：大沢 貴子（おおさわ たかこ）（大仙市立花館小学校内）

〒014-0072　秋田県大仙市大曲西根字下成沢 122
電話：0187-68-4123　FAX：0187-68-4122

部報「hand in hand」や依頼状の様式等は、大曲支援学校 HP からダウンロードできます。